

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0875200057
法人名	医療法人社団 公慈会
事業所名	グループホーム オレンジ庵
所在地 (電話番号)	茨城県神栖市堀割2-26-31 (電話)0299-90-0711

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成20年1月16日

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.11人	

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(110,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月8日)

利用者人数	名	男性	6 名	女性	10 名	
要介護1	3 名	要介護2	4 名			
要介護3	5 名	要介護4	3 名			
要介護5	名	要支援2	1 名			
年齢	平均	83.4 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	白十字総合病院・神栖済生会病院・とみかみクリニック・PCデンタルクリニック・福田内科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

比較的新しい住宅街の中にオレンジ色の洋風な建物の2階建てのホームになっている。施設内は木目の暖かさと暖色を基調としたやわらかくのんびりした印象を受ける。職員のユニホームもオレンジのエプロンにベージュ系のユニホームで暖かい雰囲気を感じる。居室は住み慣れた環境をイメージし馴染みの物品なども持ち込まれ利用者の馴染みの環境が提供されている。居室では、利用者が思い思いの時間で生活されておりその人らしさが生活の中から感じられる。平均介護度3以上と重度な利用者も多い中、ホームでは利用者の生活環境を重視したケアが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	環境整備について着目し、職員全体で取り組むようになった。家族への連絡は、はがきに写真を貼ったりするなど工夫し、家族への連絡を取るよう改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対して、職員に自己評価の項目を渡して目を通してもらい、提供するケアに対しての振り返りを行ってもらっている。職員ヒアリングでは、職員への浸透という面で少し物足りなさを感じたが今後の努力に期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の開催は、行われていない。今後の努力に期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安に対しては、苦情箱の設置や聞き取りへの工夫が見られず、今後これらのような聞き取りへの工夫が求められる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアや学生などを受け入れ地域との連携をとる工夫がある。今後は自治会や近隣の付き合いなども増やし地域連携の充実化に期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オレンジグループ全体での理念が掲げられ一ヶ月に一回の全体会議で社長や管理者などから職員へ啓発されている。		今後は、ホーム独自の理念を掲げるなど工夫しホームでの更なるケアの向上に努力されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	挨拶や食事など利用者の健康状態や環境について重点的に取り組まれている。職員もその内容を理解し日々のケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花火大会などへの参加、コンビニエンスストア等への働きかけを行い利用者を楽しみを感じてもらえるように配慮・工夫がある。	○	今後は、ホーム側からの働きかけを多く持ち、自治会への参加・老人会などへの参加を推進されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を職員全体で理解し、評価項目に対して職員全体で実施内容について考察されている。今後は職員も実施内容について記載するなどし、さらなるケアの向上に努力されたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現時点で開催されていない。	○	地域や行政との連絡を密にし、会議の開催への具体的な取り組みが今後期待される。

茨城県 グループホームオレンジ庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのパンフレットなどを持参し行政とかかわりを持つようにしている。また小学生や高校生などの体験学習などを積極的に受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料の支払いは、家族が月一回必ず来所される。その時に日常の様子や、金銭の出納など細かく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所する際に必ず、利用者の日常の様子を報告しその際家族からの意見や苦情を聞くようにしている。	○	家族からの本音や、苦情を受け入れやすくするために今後苦情箱の設置やアンケートの実施、家族会などを設置し今後のホームのケアの向上に還元できるよう工夫されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職などによる人員の変更もあったが 現時点では職員の移動もなく安定した環境を提供している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修も出勤日として扱われ、研修内容も定例会議で研修報告会なども行われ研修内容が職員全体に啓発できるよう配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などに参加し定期的に情報交換を行っている。今後は近隣のホームなどとも交流し職員間や利用者間での交流も深めていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験宿泊などを行い利用者が十分慣れてからの利用とするなど考慮し、サービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを重視し、利用者の生活史などを理解したうえでケアが提供できるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活史を理解しその中から利用者の意思や意向を把握し利用者本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意見や生活内容から個別的な介護計画が立案されている。	○	介護計画に対し今後は職員や利用者本人の意向・家族の意見などを参考にし作成することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、利用者の状況や状態に応じ適宜行われている。	○	利用者全体の計画の見直しや、家族の意見などを十分に反映させ、今後は定期的な見直しや意見交換などの場を設けるなど工夫されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスなどとのイベントでの交流やアニマルセラピーなどを使っての癒しへの対応など事業所の独自の機能を生かした支援が提供されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の総合病院や利用者のもともとのかかりつけ医など、利用者の希望する医師への受診が提供されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師と話し合い、重度化・終末期になった場合はどうするか方針を決め、共有できている。希望があれば受け入れていく方針である。心配のある利用者の家族は毎日面会しているという事例もある。また常勤、非常勤の看護師がおり医療への対応も整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要書類やプライバシー保護の観点から、保管は鍵のかかる場所に保管し保護している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や意向を積極的に受け入れ、その内容に対応できるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、厨房からの提供と各ユニットでの調理により提供されている。	○	昼食など職員の状況に応じ職員も食事時に同席するなど今後工夫されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう配慮されている。入浴拒否や体調の不良により入浴が出来ない場合は、清拭などで補い清潔の保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所内でのクラブ活動や書道、手芸など利用者の状況に合わせて役割や楽しみごとが提供できるよう工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回以上の外出の機会を設け、利用者が日常的に外出できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する利用者も多く、ホールの出入り口は施錠を行っている。	○	利用者の状況を見ながら鍵をかけないケアの取り組みに努力されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の利用者を含めた防災訓練の実施、救命認定看護師による救急法の訓練および研修などを行い災害時の職員教育を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分に対する職員の意識は非常に高く水分出納や食事量管理など細かく個人記録に記載・保存されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花などをテーブルに置いたり季節の掲示物を積極的に取り入れるなど居心地のよい共有空間の提供に努力されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物品など家族の協力を得て利用者のその人らしい生活空間の提供が行われている。		